

平成24年度
まちづくりミーティングの質問と回答の要旨

◆十王地区：7月9日（月）午後7時30分～9時 参加者数49人

<質問>

Q 元宿街道～荒砥出来町へ続く側溝が、豪雪の際、雪水が溢れた。消防分署で対応してもらったが水が通らず、2、3日そのままにしておくしかなかった。また来年もつまったということがないように、通水のできる側溝にしてほしい。

A 融雪溝といい、雪を流して溶かすタイプの側溝であるが、大量の雪が流されると、中の網に雪がつまり流れなくなってしまうことがある。できるだけ雪の塊ではなく細かくしてから流していただくと効果的ではないか。なお、再度現地を見て検討したい。

A ここ最近では、限界を超えるような量の雪が流されているのではないかと。流す時間帯を調整する等、地元で話し合いをしていただき限界を超えないように対応をお願いしたい。

Q 町道新屋敷線、公民館と地域を結ぶ幹線が、救急車も通れない、ゴミ収集車は迂回、除雪車も狭くて通れないといった状態。何年も話になっている道路。区から町へも申請してもらっている。防災意識が高まっているなか、早急に対応してほしい。

A 町道新屋敷線は、150mほど車が通れない状態になっている。道路に関する要望は、町内を通して数も多い。地元からは、新ルートは東側にとする要望が出されたため、町でもできるだけ安い費用でできるのではないかと考えている。図面上でルートを引いてみながら検討していきたい。

Q 川戸沼について、早急に改修をお願いしたい。災害が起きてからでは遅いのではないかと。関連して、草木沢上流部の未改修部分も今年度中の対応をお願いしたい。

A 昨年度も要望いただき、現在、県営事業として事業採択に向けて要望している。県で24・25年度で調査をし、沼の整備へ向かいたい。まもなく調査に入るのではないかと。沼周辺用地の問題も出てくる可能性があるため、地元の皆さまのご協力をお願いしたい。

草木沢上流部も整備するため、現在、測量を発注している。水の利用が少ない秋以降になるが、工事を行い整備を進めていきたい。

Q 関連して、川戸沼は立地的にトラックや生コン車が通れないような道路である。整備するにあたり、道路の整備も必要になってくるのではないかと。それも含めて調査をお願いしたい。

A 現有地に整備するには状況が厳しいということも含めて、こういった整備方法が良いか検討していきたい。必要であれば、別な場所も含めて検討しなければならないと思われるが、その際は地域の皆

さんと話し合いをしながら、整備方法等を決定していきたい。皆さんのご協力をいただきたい。

Q ごみの収集について、個人で出して良い許容量というものはあるか。可燃ごみを大量に出した家庭があり、その際、業者が回収しなかった。一戸3袋までという話もあるようだが、事実か。家族構成の違い等もあるので、すべて回収してほしい。

A 個人で3袋までとは、明確には決めていないが、ごみの量は増加してきており、長井市・飯豊町との協議に基づき、1回に出す量は3袋程度ということで今年度のごみカレンダーに掲載した。極力3袋程度でお願いしたいが、量が多いからといって業者で回収せず残しておくといったことは今後ないように委託業者に周知する。

ただし、ごみカレンダー掲載のとおり、引越しや大掃除などによる大量のごみは集積場に出せないものとなっている。

Q 昨冬、除雪のオペレーターが変わったが、きれいに除雪がされていないことや、通学時間を過ぎてても片側だけはかかれていないことがあった。オペレーターの研修等をして技術の差がないようにできないか。また、除雪作業によりマンホールが変形してしまったようだが、町で直してもらえるか。

A 高い技能のある年配の方々が引退の時期にあり、オペレーターの確保が難しい状況。若手の雇用を期待しているが、技能の低下は見受けられる。技能向上のために町としても指導していきたいが、もう少し時間をいただきたい。マンホールに関しては、町へ連絡をいただければ対応する。

Q 十王地区では、コミュニティセンター化については前向きに捉えていかなければならないと考えている。独自に十王塾を開催し、学習を通して具体化を図ろうとしているが、講師の人材の確保等課題が多い。町と一緒に頑張ってコミュニティセンター化へ向かっていきたい。十王地区の目標はコミュニティセンターの建設。単なる箱物ではないという観点に立ち実現に向け尽力いただきたい。

A 十王塾等についての話は伺っている。講演の内容・講師等についても支援していきたい。具体的な事業や、その取り組み内容に関しては、地区で計画を策定していただくことになるが、ご相談にのりながら支援をしてまいりたい。コミュニティセンターの建設が目標ということですが、コミュニティセンターを地域づくりにどのように活用していくのかを計画へ盛り込んでいただければと思う。

Q 国道287号と本宿街道の立体交差の東側歩道の階段に防犯灯が少なく暗い。荒砥八幡地内になるので、設置してもらうには協議等必要かもしれないが、対応していただきたい。

A 県道であり、県の管轄になるので、現地確認しながら要望したい。

Q 中学校統合はどうしてもしなければならないのか。今の東中は生徒全員受け入れることはできるのか。

A 中学校の統合については、2年間検討され、教育委員会より統合と打ち出されたので、最終的に設置者として統合の決断をし、決定した。平成27年4月1日開校を目指し、準備等すすめているところ。

A 準備委員会を立ち上げてさまざま検討しているところである。施設整備や新制服の導入時期などの話を進めている段階。決まった情報があり次第、様々な手段で公表していきたい。

Q 小学校のスクールバスの利用は、学校からの距離で決められているが、隣組の中で利用できる子ども、できない子どもがいる。歩道はなく、雪道な危険であり、距離もあるので全員利用できないか。

A スクールバスは、原則小学校2km、中学校3km以上を対象としている。地理的問題・厳冬期や歩道の有無も考慮して、臨機応変に対応できるようにしている。

Q 中学校の部活の人数の減少により、9月の新人大会に出られないような部活もあるようだ。一生懸命練習している生徒たちがかわいそうな状況。人数の足りない部活の救済措置として、統合の前から東・西中合同チームとして大会へ出場する等の手立てはないか。

A 全国的に起きている課題。西置賜地区・県・東北・全日本の中学校体育連盟があり、その中で大会の参加について規定がある。翌年に統合が決まっている学校同士で人数不足の場合は、春の大会から合同チームでの出場が可能。最終決定は秋ごろになるのではないか。その他の冠大会等については、大会要綱をつくる実行委員会に要望をしているところ。

Q 公共工事をする場合、事前に関係者を集めて、町から説明があるわけではなく、業者が工事を進めてから問題が出たり、現地の人困ることがある。まずは町で説明すべきではないか。

A 工事を進める際には、関係者に対し十分説明申し上げるのが基本だと思っている。不備があったとすればお詫びし、今後、徹底したい。

Q 最近、市町村単位で独自の財源確保策を講じているとマスコミでも取り上げられている。佐賀県武雄市では税金を減らすためにさまざまな施策を行っている。できるだけまちの財政を使わないようにといった政策展開をしているようだ。白鷹町ではなにか考えているのか。

A テレビで見た情報によると佐賀県武雄市では、民間業者が図書館を経営したり、島根県海士町では、Iターン者が町の施設に入り、起業してもらうという政策を展開しているようだ。白鷹町でも、まずは町内の方になると思うが、何か良いアイデアをお持ちの方がいればご相談いただき、町として何ができるのか考えていきたい。外部からの転入者の方の考えも必要。役場だけで行えることには限界もあるので、知恵をお借りしながら政策を進めていきたい。

A 指定管理者として委託している白鷹町文化交流センター“あゆむ”では、さまざま独自イベント、行政では考えつかないような企画で運営をしていただいている。一つのイベントから交流が広がり、

次のイベントへとつながっている。「新しい公共」とは自分たちで考え自分たちで取り組むもの。そこから地域の活性化は必ず生まれる。皆さんのアイデアを受け、効果的な政策を進めていきたいと考えている。ご協力をお願いしたい。